* 森林の分類とその定義
  + Primary, secondary, harvested, non-harvested
* 森林における人間活動
  + 森林面積変化あり：森林伐採（農地拡大・非持続的な木材採取を含む）（減少）、炭素吸収のための植林（増加）、（耕作放棄地などでの）自然再生（増加）
  + 森林面積変化なし：持続的な木材採取
* 木材採取の分類
  + 非持続的：伐採後に植林を行わない。翌年以降、放棄され、自然再生される。
  + 持続的：伐採後に植林を行う。翌年以降は、二次林となる。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | CGEモデル | 土地利用モデル |
| 森林伐採（農地拡大） | ○ |  |
| 非持続的な木材採取 | × |  |
| 持続的な木材採取 | ○  林業で要する土地  同じ森林で採取し続ける |  |
| 炭素吸収のための植林 | ○  炭素価格下での増加する森林面積（林業の土地を除く） |  |
| （耕作放棄地などでの）自然再生 | ×  経済活動でない |  |

* 土地利用変化の履歴
* 自然林の収益（＝便益―費用）？　自然林はそもそも収益とは関係なく分布している。
* 木材採取による収益
  + １．持続的な木材採取で、成長速度（フロー）が速い方が高収益
  + ２．持続的な木材採取だが、初回はストック量の多いところを選ぶ。
  + ３．非持続的な木材採取で、ストック量が多い方が高収益
* 結果
  + １、現在二次林である土地が選択され、翌年以降も植林され、二次林となる。（自然林である土地は選択されない）
  + ２、現在自然林である土地が選択され、翌年以降は植林され、二次林となる。
  + ３、現在自然林である土地が選択され、伐採される。翌年以降は、放棄されるか、自然再生される。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 自然林 | 二次林 |
| ストック | 大 | 小 |
| フロー | 小（ほぼ０） | 大 |

* CGEから木材生産用面積が得られる
  + →持続可能な木材採取と考える
* 仮に、持続可能とすると、１，２．
  + 前年から継続して二次林であるところは選ばれるべき
* 樹齢　→　VISITでは自然林・二次林の区別はなく、格子内の平均的な伐採・植林を想定。
* VISITの生産力が高いところを選択するとしてよい。

